



JMP 13.2.1リリースノート

Windows上で、2017年8月のMicrosoft Officeのアップデートが適用されているExcel 2016またはOffice 365にてXLSXファイルを保存した場合、そのファイルはJMPで読み込むことができません。この問題はJMP 13.2.1で解決されています。

JMP 13.2リリースノート

JMP 13.2はメンテナンスリリースであり、機能の拡張やバグの修正が行われています。特定の操作により再現可能なクラッシュや、数値結果に関する問題が修正されています。すべてのサイトに対して、このメンテナンスリリースを適用することをおすすめします。

新機能

- データテーブルを編集できないようにするためのJSLコマンドが複数追加されました。
 - データテーブルのセルを編集できないようにするには、**Set Edit Lock** メッセージに **Modify Cells** の引数を指定します。
 - 列や行の追加と削除が行えないようにするには、**Set Edit Lock** に **Add Columns**、**Remove Columns**、**Add Rows**、**Delete Rows** の引数を指定します。
 - データテーブルでロックされている操作のリストを取得するには、**Get Edit Lock** を使用します。
 - ロックされている操作を再び行えるようにするには、**Clear Edit Lock** を使います。
- Data Type()** の別名として **Set Data Type** が追加されました。
- 一変量の分布の「同等性の検定」のレポートで、「検定」という列が表示されなくなりました。これは、「上側」および「下側」という語が混乱を招く可能性があるためです。また、このレポートに自由度の列が追加されました。
- iPad app の **Graph Builder** で、複数のワークシートを持つExcelワークブックを読み込めるようになりました。これを行うには、読み込みのウィンドウで、**Import First Sheet Only** のオプションをオフにし、読み込みたいワークシートを選択します。ワークシートが **Gallery** のフォルダ内に表示されます。
- JMPでISO 8601データを保存できるようになりました。
- レポート内にある表の数値の表示形式を指定するウィンドウで、すべての統計量を一度に選択または選択解除できるようになりました。
- 多重対応分析のプロットがアイソメトリックなスケール（X軸とY軸の1単位の長さが等しい）で描画されるようになりました。
- ダッシュボードビルダーに“空白のダッシュボード”のテンプレートが追加されました。ヘッダーと、ソースを追加するためのボックスを1つだけ含むものです。
- 最小2乗法によるあてはめプラットフォームの環境設定で、[尺度化した推定値] の設定をオフにできるようになりました。
-  テキストエクスプローラの潜在意味分析の結果が主成分分析の結果と一致するようになりました。潜在意味分析の特異値は、主成分分析の固有値の平方根になります。
-  テキストエクスプローラのトピック分析の結果が主成分分析の結果と一致するようになりました。
- テキストエクスプローラのトピック分析で使用する用語を改善しました。「トピック 単語」は「各トピックの単語」に変更されました。「トピック 割合」は「Variance Explained by Each Topic」（トピックごとの説明される

変動)に変更されました。「回転後のV行列」は「トピック分析の単語負荷量」に変更されました。「回転後のU行列」は「トピック分析の文書スコア」に変更されました。

改良点

アプリケーションビルダー

- アプリケーションビルダーで編集したアプリケーションを保存するときに、JMPが異常終了してしまう場合があるという問題が修正されました。
- ワークスペースにあるボックスを選択して[スクリプト]>[Change]を選択したときに、Scriptsタブが表示されるようになりました。

ダッシュボードビルダー

- ダッシュボードビルダーのプレビューでCtrl+Zキーを押したときにJMPが終了してしまう問題が修正されました。

データフィルタ

- グラフビルダーのウィンドウのローカルデータフィルタで[クリア]をクリックしたときにJMPが終了してしまう場合があるという問題が修正されました。
- 連続尺度の列に「欠測値のコード」プロパティが設定されている場合に、データフィルタの[欠測値を選択]が正しく動作しない問題が修正されました。

データテーブル

- 仮想結合しているラベル列を持つデータテーブルを開いたときに、JMPが異常終了してしまう場合があるという問題が修正されました。
- 「要約」などで作成されたデータテーブルのデータタイプを「列属性の一括設定」で変更すると、JMPが終了してしまう場合があるという問題が修正されました。
- 他の列の計算式で使用されている列を削除するときにJMPが終了してしまう場合があるという問題が修正されました。
- スクリプトにて、すでに削除された列への計算式の参照を削除しようとする、JMPが終了してしまう場合があるという問題が修正されました。
- 行と行の境界線をクリックしたときに、データテーブルが先頭までスクロールしてしまうという問題が修正されました。

計算式エディタ

- Char、Hex、Hex to Number、Matrix、Blobの関数が計算式エディタのリストに表示されるようになりました。

読み込みと書き出し

- CSVまたはXMLファイルで最後の列がmultiple-variableタイプのTriple-Sファイルが正しく読み込めない問題が修正されました。
- 特定のSAS移送ファイルを読み込んだ場合に、読み込まれる行の数がSASで読み込んだときと異なる場合がある、という問題が修正されました。

JMP クエリービルダー

- 仮想結合で参照されている列は、現在クエリービルダーでサポートされていないため、「選択可能な列」のリストに表示されないようになりました。

Macintosh

- Touch Barを持つ15インチのMacBookのグラフィックプロセッサ（GPU）が、必要がない場合でもフル稼働してしまうという問題が修正されました。
- Mountain Lion 10.8.xの環境で、ホームウィンドウの「最近使ったファイル」や「ウィンドウリスト」が正しく機能しない問題が修正されました。

PDFの保存

- PDFファイルとして保存されたグラフを印刷したときに曲線が直線になってしまう場合があるという問題が修正されました。

再コード化

- 「値の順序」列プロパティを持つ列を再コード化した場合、値の順序プロパティに再コード化後の値が正しく反映されない問題が修正されました。

Windows

- 環境設定の「ウィンドウを最大化したときウィンドウリストを表示する」が有効になっていて、かつセッションの終了時に開いていたデータテーブルやレポートが次のセッションの起動時自動的に開くようセッションが保存されていた場合、次回JMPを起動してレポートを最大化するとクラッシュが発生するという問題が修正されました。

グラフ

グラフビルダー

- グラフビルダーのウィンドウを開いているときにJMPの表示言語を変更し、軸の設定ウィンドウを開こうとするとJMPが終了してしまうという問題が修正されました。
- グラフビルダーの凡例が、ジャーナルの保存時に正しく反映されない場合があるという問題が修正されました。
- グラフビルダーの回帰直線と信頼区間のグラフをSVGファイルとして保存した場合、グラフエリアの内容がビットマップとして書き出される問題が修正されました。

パラレルプロット

- 凡例を変更したときに、JMPが終了してしまう場合があるという問題が修正されました。

統計機能

選択モデル

- 被験者効果がある場合で「比較」コマンドで「すべて」を用いたときに、結果における組み合わせが適切ではない問題が修正されました。
- 階層型 Bayes 分析の「効用計算式の保存」において、事後平均値が使われていましたが、各被験者効果に基づいて計算されるようになりました。

管理図ビルダー

- いくつかのフェーズがある「Levey-Jennings 法」の管理図において、データテーブルの行を除外した場合に、他のフェーズにおける管理限界が間違った値になる問題が修正されました。
- XやYに指定された列のデータタイプを変更すると、JMP が異常終了する問題が修正されました。
- ばらつきに関する管理図に対しても、仕様限界の線が描かれてしまう問題が修正されました。
- 管理図で複数の Y 変数を描いた場合に、後から追加した Y 変数に対して、仕様限界の線が描かれない問題が修正されました。
- テストの結果を示す赤い丸が、より大きくなり、見やすくなりました。

実験計画 (DOE)

- 「実験計画 (DOE)」のプラットフォームで作成されたデータテーブルに付随する「モデル」スクリプトを実行したときに、複数の Y 変数がある場合は、「モデルのあてはめ」の起動ダイアログに「個別にあてはめ」オプションが表示されるようになりました。
- 「応答曲面計画」において、ブロック因子がある計画を作成して「ブロック内でランダム化」を選択した後、「戻る」ボタンをクリックし、そして、ブロック因子がない計画を作り直した場合、作成されるデータテーブルが間違ったものになる問題が修正されました。
- 「カスタム計画」で2段分割実験を計画し、因子に対して許可しない組み合わせを定義したときに、二次単位の因子における水準が同じ単位内において一定となっていない問題が修正されました。
- 線形制約をもつ計画を作成した後、「戻る」ボタンをクリックし、その後、別の制約式を追加して計画を作り直した場合に、JMP が異常終了する問題が修正されました。
- 計画が反復されたものである場合に、「決定的スクリーニングのあてはめ」の結果が間違ったものになるという問題が修正されました。

一変量の分布

- By 変数を指定して分析を実行した後、いくつかの結果を「削除」し、積み重ねて表示した場合、JMP が異常終了する問題が修正されました。
- Ctrl キーを押しながら「幹葉図」を選択すると、JMP が異常終了する問題が修正されました。

モデルのあてはめ

- 複数の Y 変数にモデルをあてはめたとき、「(あてはめのグループ」全体に対する「自動再計算」はオフにしたまま) ある1つの Y 変数に対して「自動再計算」をオンにした後、データテーブルの行属性を変更すると、JMP が異常終了する問題が修正されました。

JMP 13.2 リリースノート

- 「あてはめのグループ」のレポートにおいて、数値結果の表示形式を変更するときに「ウィンドウ内の他のレポートにも適用」オプションを指定しても、他の個所の表示形式が変更されない問題が修正されました。
- パラメータ数が非常に多いモデルをあてはめたときに、JMPが異常終了する問題が修正されました。

一般化回帰

- 名義尺度の応答変数に欠測値がある場合にROC曲線が間違っものになる問題が修正されました。
- 「一般化回帰」の「変数増加法」において、完全交絡しているいくつかの項を変数選択の対象から除いていましたが、それらもすべて考慮して変数選択するようになりました。すべての項が、変数選択の対象となりました。
- 「ダブルLasso」において「親子関係を効果に必ず適用する」オプションを指定したときに、そのオプション指定がスクリプトに保存されない問題が修正されました。

混合モデル

- 「反復構造」タブにて誤差構造として「異分散」を指定したときに、分散や共分散の推定値が間違っものになる問題が修正されました。

PLS回帰

- たとえばX1とX2に異なるパターンで欠測値が含まれている場合、標準化のときの平均と標準偏差は両方が非欠測値であるデータだけが使われていました。1変数ずつで非欠測値であるものが標準化に使われるようになりました。

標準最小2乗

- 「最小2乗平均の対比」に指定された対比が、スクリプトに正しく保存されない問題が修正されました。
- 「最小2乗平均の対比」において、対比を指定するボックスの下に空白が表示される場合があるという問題が修正されました。
- Dunnett検定におけるコントロール水準（対照群）のデータ値がスラッシュを含んでいる場合、その分析のスクリプトを実行するとそのコントロール水準が正しく指定されない問題が修正されました。

二変量の関係

- Dunnett検定におけるコントロール水準（対照群）のデータ値がスラッシュを含んでいる場合、その分析のスクリプトを実行するとそのコントロール水準が正しく指定されない問題が修正されました。

計算式デポ

- 計算式デポに、変数変換に用いた計算式の情報も表示されるようになりました。
- 「モデルの比較」、「プロファイル」、「スクリプトの実行」を選択すると、どのデータテーブルに対してそれらを実行するか、データテーブルを選択するウィンドウが呼び出されるようになりました。

潜在クラス分析

- クラスター数の最大個数として現在のデータから計算できる最大個数よりも大きな個数が指定された場合、その実現可能なクラスター数が最大個数として設定され、メッセージがレポートの先頭に表示されるようになりました。

MaxDiff

- 階層型Bayes分析の「効用計算式の保存」において、事後平均値が使われていましたが、各被験者効果に基づいて計算されるようになりました。

- 被験者効果がある場合で「比較」コマンドで「すべて」を用いたときに、結果における組み合わせが適切ではないという問題が修正されました。

多変量の相関

- 「推定法」が「最尤」や「REML」である場合に、内部的な計算において共分散行列の特異性を適切に処理していない問題が修正されました。
- 「推定法」として「デフォルト」が選択されているときでREML推定が行われた場合、REML推定が収束しない場合にはペアワイズ法に自動的に切り替えるようになりました。そのような場合に対しては以前のバージョンでは収束していない結果が表示されており、異なったオペレーティングシステム上で実行すると結果が異なる場合があります。

多変量管理図

- 共分散行列が特異な場合に、「変化点の検出」の結果が間違っただけになる問題が修正されました。

ニューラル

- 乱数のシード値を指定するとすべての推定結果が同じになるようになりました。

曲線のあてはめ

- 「Gauss型ピークのあてはめ」において、数値アルゴリズム（反復計算における初期値計算）が改善されました。

主成分分析

- 「推定法」が「最尤」や「REML」である場合に、内部的な計算において共分散行列の特異性を適切に処理していない問題が修正されました。
- 行数が列数よりも少ない場合で、かつ、データに欠測値がある場合に、「補完したスコアプロット」に点が描かれない問題が修正されました。
- 原点周りの積和行列に対する主成分分析を行った場合、Xモデルからの距離が間違っただけになっている問題が修正されました。
- 原点周りの積和行列に対する主成分分析を行った場合に「予測値の保存」で保存される計算式が間違っていました。正しい予測式（切片の無い計算式）になりました。

プロファイル

- 「グラフ」>「プロファイル」メニューで「プロファイル」を呼び出し、赤い三角ボタンより「計算式の表示」を選択した場合、計算式の一部が抜けている問題が修正されました。





再生モデルによる分析

- 「再生モデルによる分析」プラットフォームにおいて、「ラベル」と「グループ変数」に同じ列が指定された場合、「イベントプロット」の縦軸でのラベルが重複したものになるという問題が修正されました。
- 「強度計算式の保存」を選択したときにJMPが異常終了する場合があります。問題が修正されました。

REML

- 変量効果に対して Tukey 検定を行ったときに、信頼区間が欠測値になり、また、[文字の接続レポート] が間違っただけになる問題が修正されました。
- 交互作用に対して Tukey 検定を行ったときに、[クロス集計レポート] の結果が [文字の接続レポート] の結果と一致しない場合がある問題が修正されました。

テキストエクスプローラ

- [列による単語のスコア] コマンドを選択した場合、そのコマンドがスクリプトに保存されるために、保存したスクリプトを実行するたびに新しいデータテーブルが作成される問題が修正されました。
-  [特異ベクトルの計算式の保存] の結果が、[文書 特異ベクトルの保存] の結果と異なる場合があるという問題が修正されました。[トピックベクトルの計算式の保存] の結果が、[文書 トピックベクトルの保存] の結果と異なる場合があるという問題が修正されました。
-  「各トピックの単語」の結果が変更されました。特異ベクトルを Varimax 回転していたのですが、特異ベクトルを特異値で重み付けしたものを Varimax 回転するようになりました。
-  「回転行列」が、「主成分分析」プラットフォームの [因子分析] コマンドで実行したときのものと同じになりました。
-  「各因子によって説明される分散」が、「主成分分析」プラットフォームの [因子分析] コマンドで実行したときのものと同じになりました。

変動性図

- データテーブルのすべての行を選択して、それらの行を非表示かつ除外し、それらを再び表示かつ非除外にすると、JMP が異常終了する問題が修正されました。

スクリプト

- Graph Box のスクリプトの中で Reshow を指定した場合、Macintosh 上でも正しく再描画されるようになりました。
- Concatenate で正しくない指定をしたときに、JMP が終了してしまう場合があるという問題が修正されました。
- JSL スクリプトで「欠測値のコード」列プロパティを削除した後も、そのプロパティが有効になってしまう場合があるという問題が修正されました。
- Summary の引数として指定された変数が正しく評価されない問題が修正されました。
- Copy Table Script で No Data オプションを指定した場合、コピーされるスクリプトの中で、本来 New Column() と指定されるべきところが Column() になってしまう問題が修正されました。
- 環境設定の Show Alternative Column Name が有効になっていても、Col List Box() で別名が表示されない場合があるという問題が修正されました。
- [列プロパティのコピー] でコピーされたスクリプトが、JSL デバッガでエラーになる場合があるという問題が修正されました。
- 列スイッチャーを含む Tab Box() で、スイッチする列を選択すると自動的に右にスクロールし列スイッチャーが見えなくなってしまう問題が修正されました。
- Tab Box() の中に H Center Box() が含まれている場合、H Center Box() の中にあるディスプレイボックスのサイズが自動的に変わってしまう場合があるという問題が修正されました。

JMP 13.2 リリースノート

- **Tab Box()** に **Add** メッセージを送った場合、その中の **Combo Box()** が正しく動作しない場合があるという問題が修正されました。
- **Create Excel Workbook()** にて、**Private** または **Hidden** のデータテーブルを Excel ワークブックに書き出すことができるようになりました。
- 「モデルの比較」プラットフォームでスクリプトを保存した場合、プロファイルの指定が含まれない問題が修正されました。
- **Load Text File()** にパスの URL、および JSON オプションを指定した場合、エラーが発生する問題が修正されました。
- 管理図ビルダーのスクリプトで、**Set Sample Size()** の引数を変数で指定した場合に正しく展開されない問題が修正されました。
- 工程能力のスクリプトで、**Process Variables()** の引数を変数で指定した場合に正しく展開されない問題が修正されました。
- **Col Mean()** などの引数に **Empty()** を指定したときに、エラーが発生しないよう修正されました。
- PLS 回帰のスクリプトで、**Validation Method** と **Initial Number of Factors** の両方を指定した場合、常に **Initial Number of Factors** が優先されるように修正されました。
- **Minimize()** の 2 つ目の引数として、最小化する式の中で使われていない変数を指定した場合、数値微分による近似が使用されるようになりました。